平成 24年 4月 1日
第 59 号

やかたばら環境通信

◇◇ 発行 ◇◇
八方原の環境を守る会
代表 原田憲一郎
電話 972・7602

共同活動に 1253 人の参加

平成 19 年からの 5 年間で農地・水・環境保全向上活動事業への八方原の環境を守る会の参加人数が 1253 人（年平均 250 人）となりました。


重いコンクリートブロックを運んで水路法面の保護を行う

農地・水・環境保全向上活動が第一期の5年が終了しました。八方原の環境を守る会では、この事業の発足から積極的に取り組み、組織化や計画の作成などを行ってきました。

当事業の目的は農地の保全確保にあることは言うまでもありませんが、農環境の保全は、そこに住まう住民にとっての住環境に直結することから、農家だけでなく地域全体として支えていくことが必要という観点からスタートしています。

活動は基礎的な部分と向上対策の二つに分かれています。基礎部分は農道や水路などの保全（雑草刈り取り、破損箇所の補修）です。向上対策としては景観整備となる花の植栽や、教育機関などとの連携などがあります。

当会が行ってきた保全活動としては、水路の渡り板の補修があります。木製の不安定な物が多く危険でもあったので年次的に補修を行いました。

また農道から水路へ降りる際の通路がない部分には新たに階段などを取り付けました。これらの対策によって農作業の効率化、安全性の向上ができたと確信しています。

水路の補修では送水管の漏水防止作業も実施しました。シリコン補充材を使って水漏れ部分に手当を施しました。水のある時期にはできないので、確認を使用時期に行い、農閑期に作業を行いました。

雑草の刈り取り作業は農作業の中でも最も厳しい作業ですが、水路や農道に関するものには、日当支払という形で支援を行ってきました。こうした活動を続けて参りましたところ、5年間で1253人の参加を頂き、1，277，906円の日当のお支払いができました。

また景観整備として行っている花壇の植栽については山口国体の花いっぱい運動にも参加し、誠に微力ながら支援活動を行いました。

また従来から行っている上郷小学校の児童への田植え作業の実演学習では、実際の作業を間近で見せることができました。それらに多くの参加児童から感謝の手紙や驚きの声を頂きました。

いよいよ第2期目のスタートなりますが、平成23年度から始まった向上活動事業と併せてより良い農環境、住環境の確保に努めて参ります。引き続き皆さまのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

代表 原田憲一郎


せえーの！古い渡り板を引き上げる

この通信は http://www.harataco.org/sigeki/ で読むことができます

八方原橋の路面補修



削り取られたアスファルトはトラックに

八方原橋の舗装面が一部改修されました。舗装が傷み、橋脚の継ぎ目では大きなくぼみになっているところもありましたが、痛みの激しい東側が施工されました。継ぎ目部分もきれいにやり直され、自転車も自動車も路面を選んで走る必要がなくなりました。

道路のアスファルトを削り取る特殊な機械が移動しながら、アスファルトを粉々にしてコンベアに送り込みます。それを大型トラックが処分場に次々に運んで行きました。

一旦舗装を行った後、橋脚の継ぎ目部分を切り取って、金属製の継ぎ手を組み込みます。こうして温度の変化で路面が伸縮しても路面が傷まないようにするようです。

この改修工事については平成21年度の事業予定となっていましたが、その年の7月に大水害があり、その復旧工事を優先するために延び延びになっていたものです。残りの部分については来年以降になるようです。

新年度の役員が決まりました

平成24年度八方原区役員			
区　　長	原田昭雄	宮　総　代	原田茂樹
会　　計	国重正悟	交通委員	田良宜充
公民館長	松井和政		黒瀬秀俊
会計監査	原田孝次	子ども会会長	杉山良明
	片山静市	〃　副	黒瀬秀俊
体育部長	原田真澄	踊り推進委員	原田温子
〃　副	西尾秀子	母子保健委員	佐々木彰子
衛生部長	原田稔裕		青木由紀
消防組頭	原田茂樹	福祉委員	神武政枝
〃　副	菊本弘志	墓地管理委員	原田信義
老人会長	原田孝夫	防犯連絡員	佐々木仙友
〃　副	原田和子	防火管理責任者	黒瀬和美
〃　副	原田好江	民生委員	末広玲子

隠れていた大きな構造物が見えた



竹林に隠れていたコンクリート構造物

2月から始まった伐採事業できれいになったタケノコ山。竹が無くなると何やらコンクリート製の構造物が現れました。

原田博人さんの話しでは、この構造物は公共水道が始まるまで使われていた八方原地区の簡易水道の配水タンクだとのことです。

水源は現在のリサイクル集積所にある井戸。この井戸からこの配水タンクまでポンプで水を送り、そこから各家庭に配水していたのです。博人さんは「金気(かなけ)(鉄分)が多くての、やれんじゃった」と教えてくれました。あの辺りの小字は「金原」、その所以かも知れません。

「水」という重要なライフラインに関わる重大な問題に、自分たちの地域として取り組んだ先人達の決断と英知に敬意を払わずにはおれません。

闘犬大会にたくさんの人々

3月18日、亀井組さんの倉庫の周辺は大変な賑やかさになっていました。九州や広島などから続々自動車が駆けつけます。土佐犬の闘犬大会が行われたのです。

会場には二つの土俵が設けられ、体重などで細かく分けられたクラスごとの勝負が行われていました。厳しいルールがあるので、一定の形勢になると「勝負あった」とストップがかかります。

それにしても、飼い主ほどもあるような大きな犬達の戦いは迫力満点でした。



出番を待つ土佐犬。落ち着かない様子